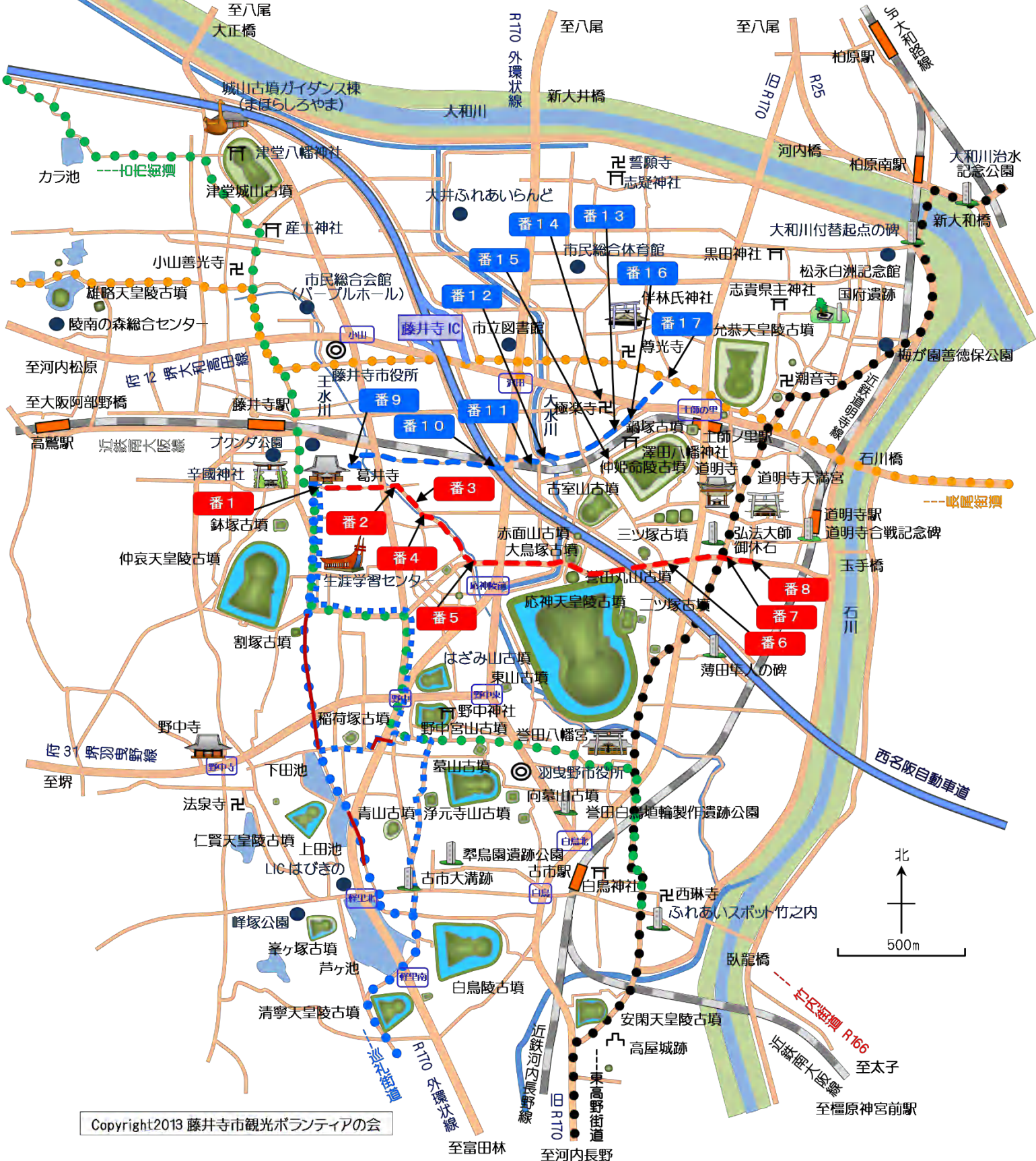


「五街道の道しるべを巡り歩く」シリーズマップ

藤井寺市域及び周辺には、東高野街道・長尾街道・古市街道・巡礼街道・竹内街道と東西・南北に古くからの道が通っています。江戸時代にはこれらの街道を利用して、寺社参詣や商いなどで多くの人が行き交いました。移動されているものも多ありますが、街道の要所には、道標（道しるべ）が建てられています。藤井寺市域の街道沿いを中心に、道標（道しるべ）を探しながら散策してみませんか。

※マップ内の **番1** 等のラベルは本文中の写真撮影地点の番号です。

※赤色の破線は2頁の「北面ルート」、青色の破線は6頁の「ハの道明寺への案内」の道です。



35. 五街道の道しるべを巡り歩く その四「巡礼街道（番外編）」

西国三十三所 第四番榎尾山施福寺（まきのおさん せふくじ（まきおでら））から 第五番紫雲山葛井寺（しうんざん ふじいでら）までの巡礼（順礼）街道をご紹介しましたが、葛井寺の次は 第六番壺坂山南法華寺（つぼさかさん みなみほっけじ（つぼさかでら））への参詣となります。

葛井寺から壺坂寺への巡礼ルートが記載された文献・資料が見つかりません。ここからのルートは筆者の独断と偏見でご紹介することをご了承願います。

葛井寺南大門前の道標がヒントになりそうです。



①

西 面		北 面	
右	つぼさか	左	道明寺
は	よしの	ほうりうし	たつた
せ		なら	
い			
勢			

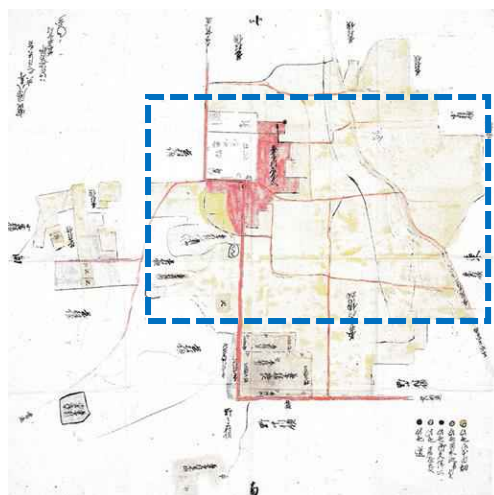


②

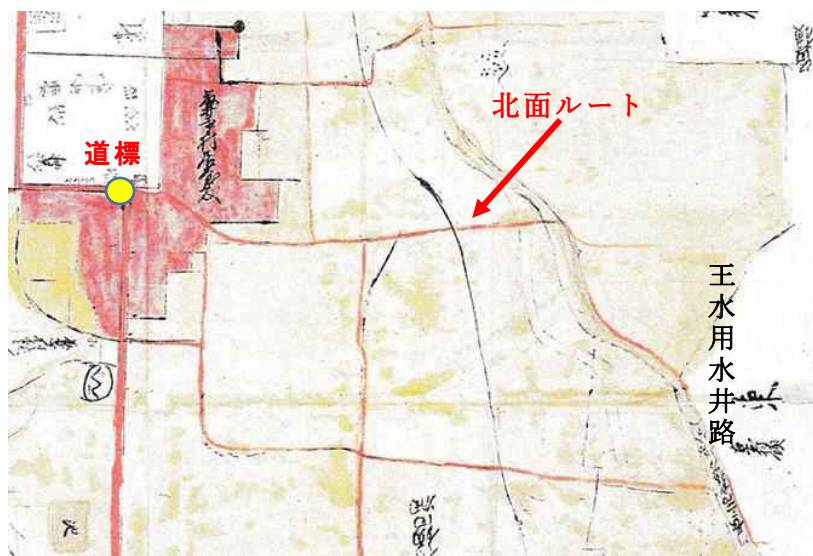
左	つぼ坂
---	-----

① 西面は順礼街道を南下し、軽里から竹内街道に入って東進する場合を記し、北面は葛井寺の門前を東に進み、道明寺・国府を経て長尾街道に入り東進する場合を示す。（巡礼街道後編と同じものです） **番 1**

② 西国第六番札所である壺坂寺（壺坂山南法華寺）へは、順礼街道を戻って軽里から竹内街道を東に進む。札所のみを案内する順礼街道本来の道しるべである。（巡礼街道後編と同じものです） **番 1**



河州丹南郡葛井寺村絵図



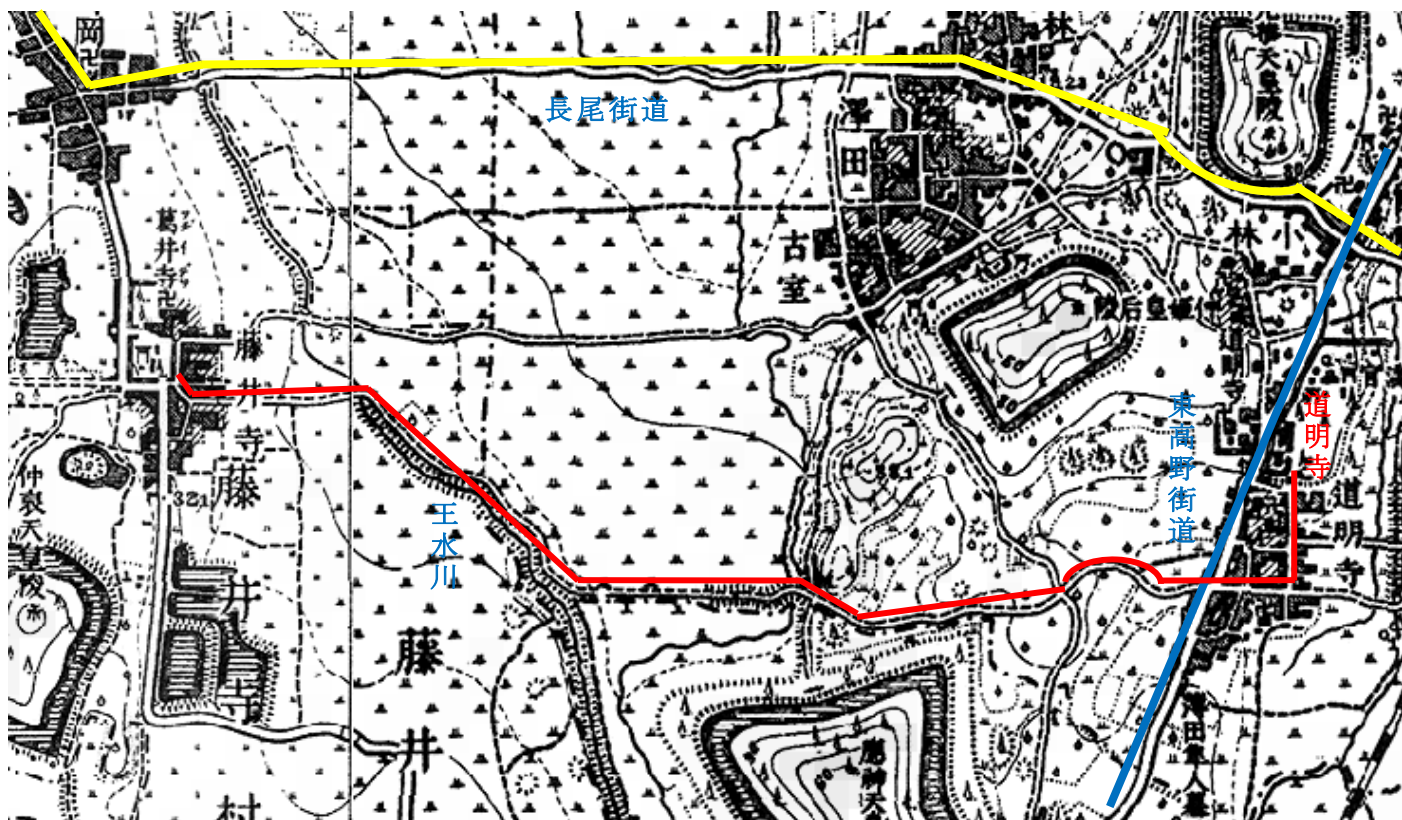
一部拡大・宝暦 8 年（1758）

古くから大和へ向かうルートは幾つかありましたが、道標①西面、道標②で壺坂寺へは南を指しています。巡礼街道を南へ進み軽里から竹内街道を東に進むルート、あるいは古市街道を進み、誉田八幡宮から東高野街道へ入り、蓑の辻で竹内街道を東へと進むルートです。

距離的にも最短のルートだったと思われます。

では、道標①北面にある「道明寺・龍田・法隆寺・奈良」のルートはどう行ったのでしょうか。

河州南丹郡葛井寺村絵図の「北面ルート(赤→)」を明治41年則図に表示してみます。



明治41年則図（1908）に河州南丹郡葛井寺村絵図のルートを転記

現在の道も明治時代と大きく変わらないので比較的辿りやすいかと思います。葛井寺南大門前を東へ進み府道186号の信号を渡ります。渡るとすぐに王水川が有ります。地藏橋を渡り、右折して王水川沿いに南へ向かいます。東藤井寺・藤ヶ丘の住宅を抜け、境橋を左折して東へ向かいます。



地藏橋（東藤井寺） 番2



王水川浄化施設（休止） 番3



王水川浄化施設（休止） 番3



藤ヶ丘橋 番4



境橋 番5

外環状線西古室の信号を渡り東へと進みます。右手に応神天皇陵古墳が見えています。



荒蕪図



成功図

「荒蕪」図は、三段築成の北面する前方後円墳の応神天皇陵（菅田御廟山古墳）を東側から描写したものである。右手（北）が前方部、左手（南）が後円部に当たる。「成功」図は、北側の新設された拝所側から見たものである。前方部は平坦ではなく、後円部とほぼ同じ高さに描かれている。（実際は後円部が1m高い）拝所は内堤に設けられており、ここでも濠はほとんど描写されていない。（文久山陵図・図版解説）

応神天皇陵の北側をさらに東へ進み、西名阪自動車道くぐると左手に府営住宅があります。その三叉路の角に道標が立っています。



東面	
右	応神天皇
皇	仲姫命
后	御陵参拝道

西面
大阪皇陵巡拝會建設

③ 仲哀天皇陵（消滅）、允恭天皇陵と同様大正年間の建立と思われます。

番6

そしてさらに東へと進み、旧170号線の信号を渡ると東高野街道と交差します、正面に地蔵堂があります。



東 南
道 菅田八幡宮
明 寺天満宮 是より五町
寺 天満宮 是より五町



番7

④ 地蔵堂内に舟形浮彫地蔵があり、その光背面に道標が刻まれている。持錫地蔵の頭上には地蔵菩薩の種子（カ）が、向かって右側に「南 譽田八幡宮 是ヨリ五町」、左側に「東 道明寺天満宮 是ヨリ壹町」とあり、東高野街道を南下、あるいは大坂道から譽田御廟山古墳（応神天皇陵）の北を東進してきた旅人に、譽田八幡宮・道明寺天満宮への案内をする。（東高野街道と同じものです）

地蔵堂から東へ 100mほど進んだ道明寺天満宮の正面に位置する所に道標があります。



⑤ 書体は大ぶりの隷書で印象深いですが、現在、東面は人家の壁に接しているため、判読しがたい。天満宮への参詣者を対象にした案内である。 番 8

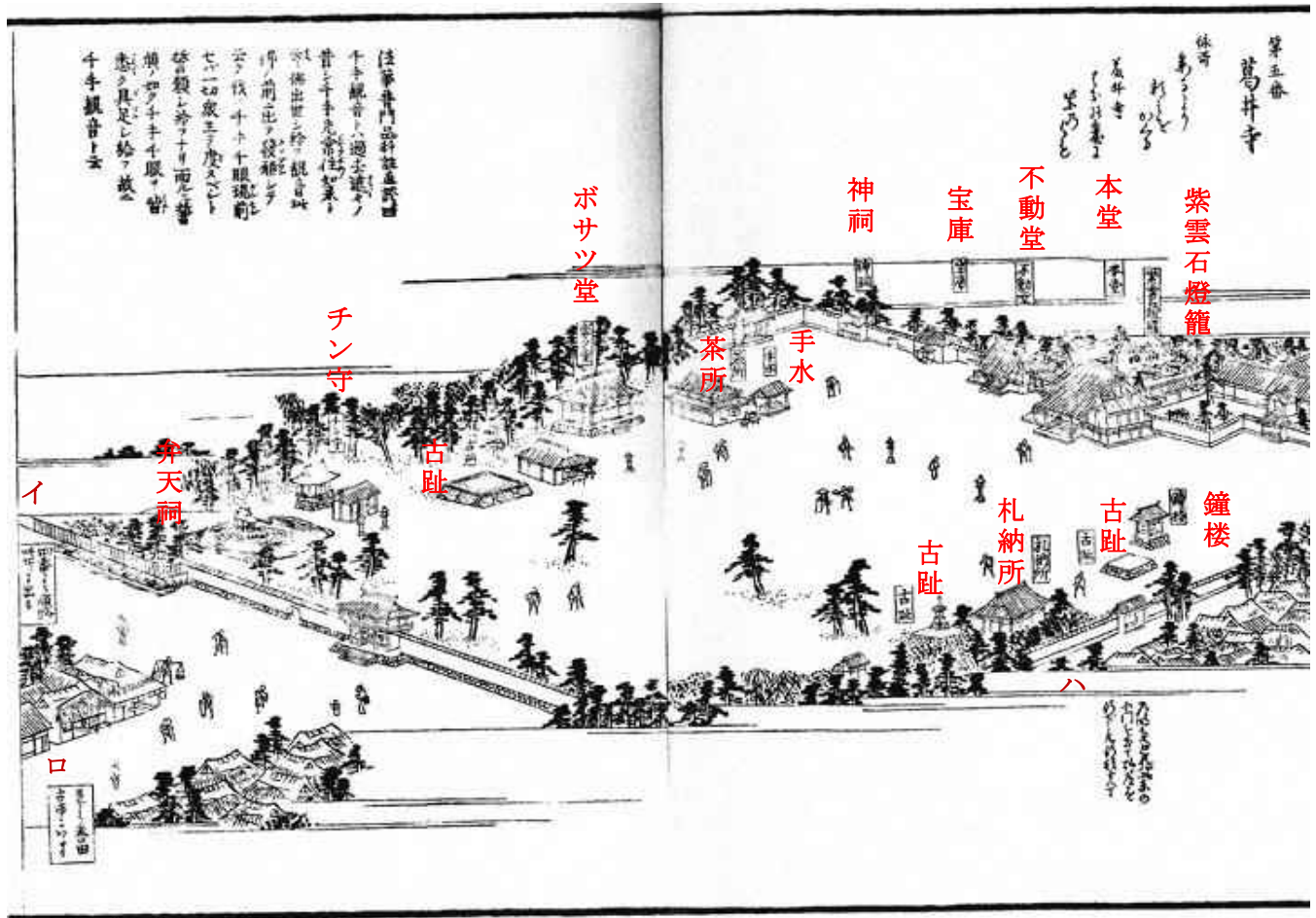
この道標から北へ進むと道明寺に到着する。現在のように道明寺が東高野街道の西側に移ったのは明治になってからで、それまでは道明寺天満宮と同じ場所に道明寺もありました。



河内道明寺絵図・安永 2 年（1773）

道明寺参詣後、壺坂寺へは東高野街道を南下し蓑の辻で竹内街道を通り大和國へ、一方法隆寺奈良へは、東高野街道を北進し長尾街道から龍田越奈良街道を歩いたのではないのでしょうか。

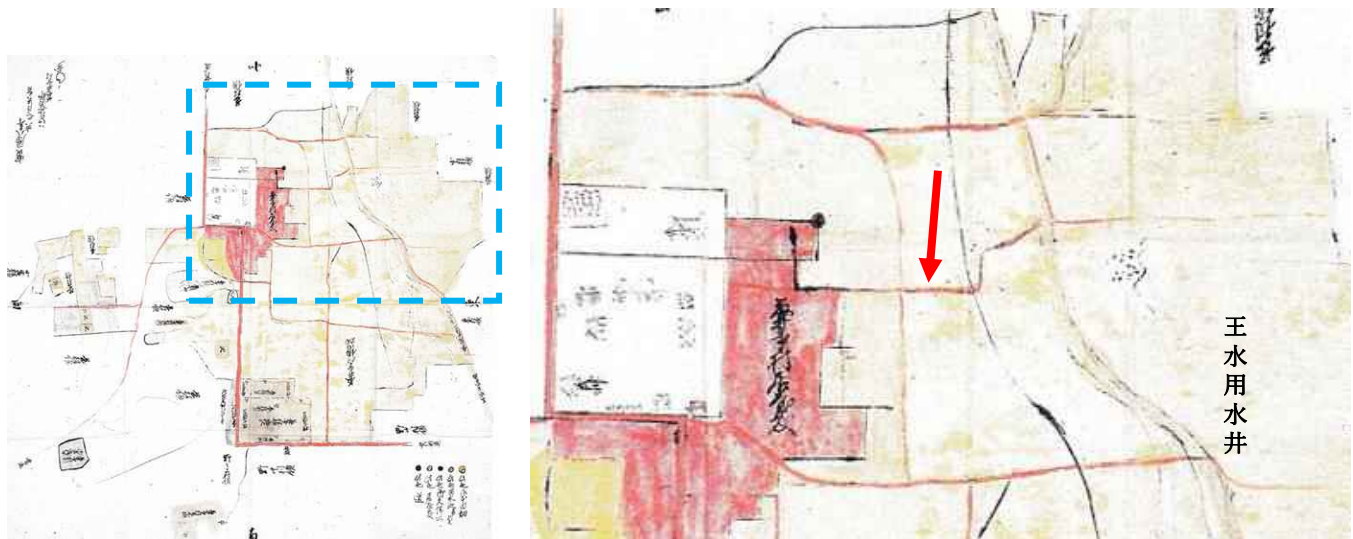
それでは、もう一つ気になることがありますのでご紹介します。下記は西国三十三所名所図会・嘉永6（1853）です。欄外に記載されている文言です。



西国三十三所名所図会 嘉永6（1853）年

- イ 四番より順路此の所に出る
- 口 是より誉田古市にいたる
- ハ 道明寺へ廻めぐれば此（この）東の小門（こもん）を出でて野道（のみち）を行（いく）べし凡（およそ）行程（こうてい）十八丁（ちょう）

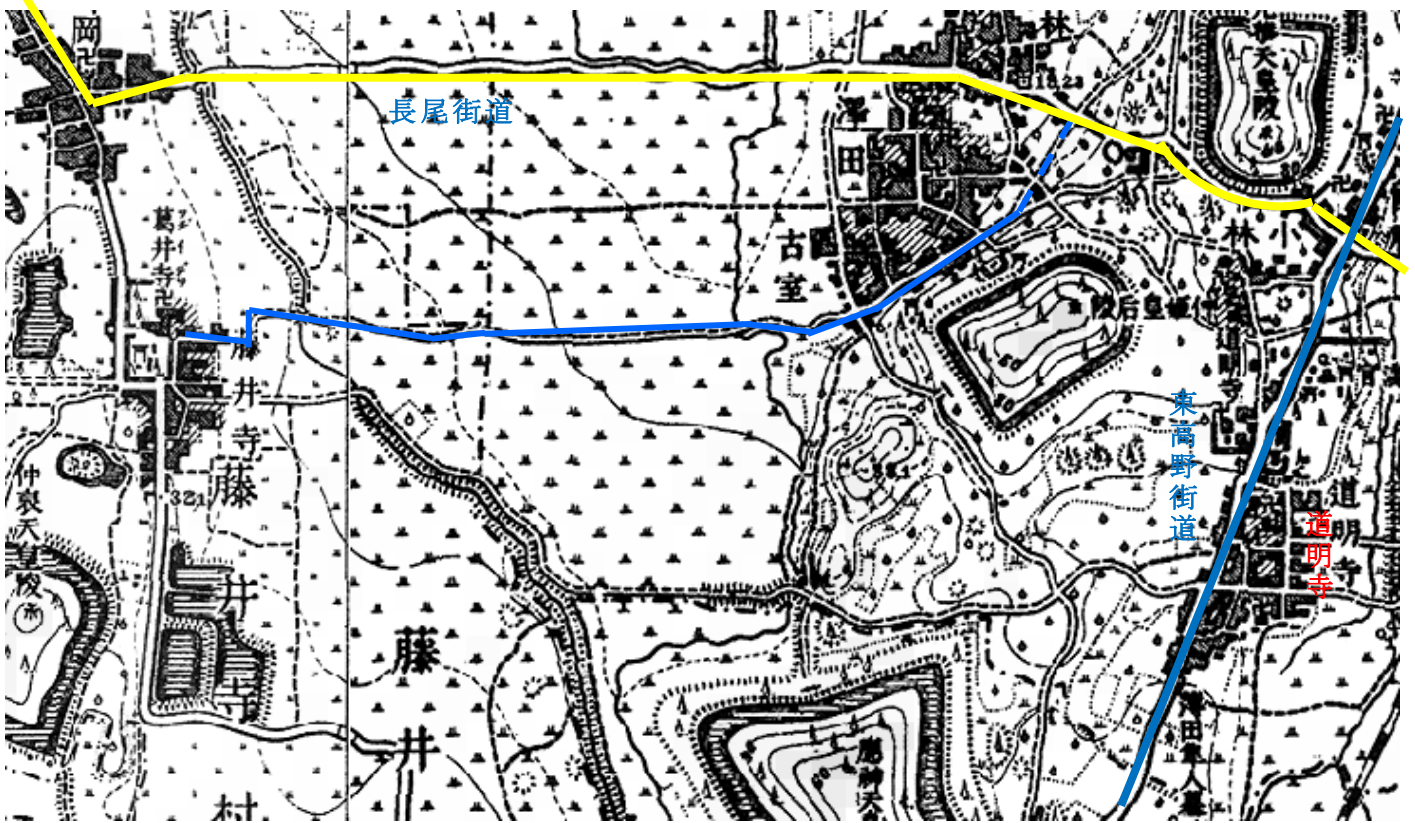
ハの道明寺への案内です。東門からも道明寺へのルートがあることが書かれています。



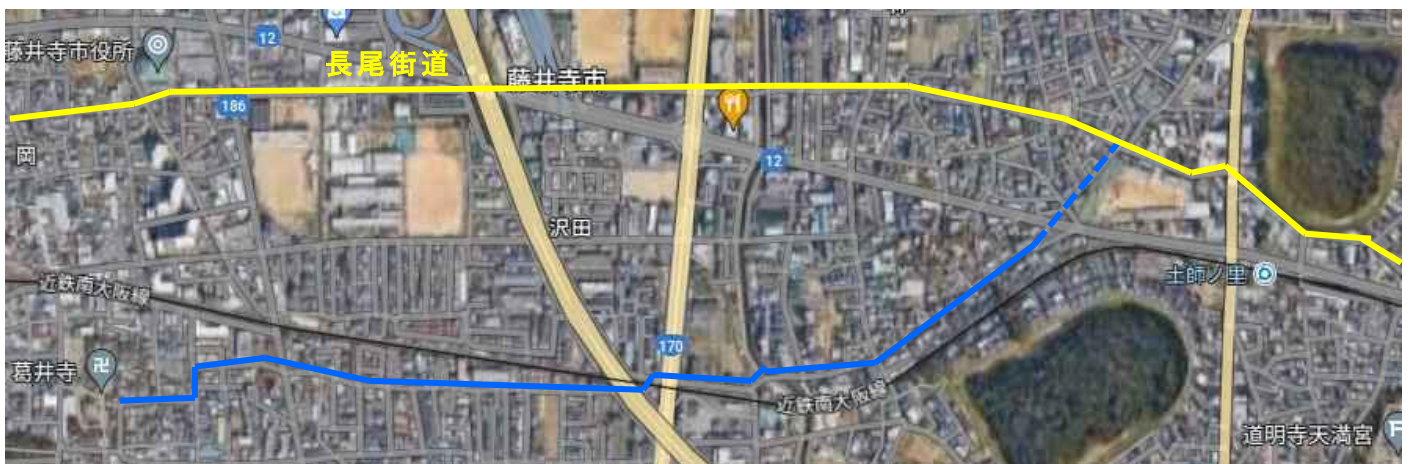
河州丹南郡葛井寺村絵図

一部拡大・宝暦8年（1758）

葛井寺東門からの道を明治 41 年則図に表示してみます。



明治 41 年則図（1908）に河州丹南郡葛井寺村絵図 のルートを取記
現在のマップで見えます。明治時代と大きな相違は有りません。



Google



葛井寺東門



東門から東へ進みます

番 9

葛井寺東門を出てひたすら東へ進みます。藤井寺保健所南側を通り、さらに東藤井寺・西古室の住宅街を通り外環状線の高架下で近鉄の踏切を渡ります。



踏切を渡ります 番10



線路に沿って東へ進みます、やがて右手に踏切が



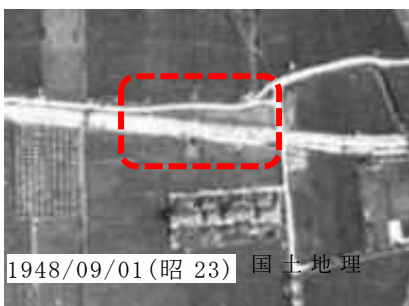
建物が建っている位置が旧駅跡 番11



大鉄沿線案内圖・部分 御陵前駅(松原鉄道物語ヨリ)

余談 1922(大正11)年4月大阪鉄道によって道明寺～布忍間の路線が開通し、藤井寺駅が開業しました。大正12年4月に布忍～大阪天王寺駅間が開通し、大正13年6月土師ノ里駅と御陵前駅が開業しました。何れも応神天皇陵・允恭天皇陵・仲姫皇后陵を参拝する人々のための駅開業であったかと思われます。御陵前駅は1933(昭和8年)4月に応神御陵前駅に改名されましたが、1945(昭和20)年応神御陵前駅は休止となり、1974(昭和49)年廃駅となりました。

応神御陵前駅があった場所には、現在何の痕跡も見当たりません。線路両側に若干の空地が存在し何らかの施設があったかと想像できるくらいです。



1948/09/01(昭23) 国土地理院



2021.02 Google Earth



西から

番11

線路沿いをそのまま東へ進みます。直ぐに大水川に架かる橋があります。橋の名前が「**巡礼街道新橋**」となっています。



右に御陵前駅跡、赤矢印に巡礼街道新橋 大水川に架かる巡礼街道新橋 **番12**

巡礼街道新橋があるならば巡礼街道橋がありそうなのですが、藤井寺市内に巡礼街道橋は有りません。藤井寺市橋梁課では、保健所の南側から新橋まで至る道を巡礼街道として取り扱っているらしいのですが、起点・終点は定かではないようです。

巡礼街道新橋を渡り東へと進みます。右手に澤田八幡神社が見えてきます。澤田八幡神社は境内参道を近鉄電車が走っていることで、藤井寺珍八景の一つとも言われています。



澤田八幡神社境内を通る電車 **番13**

奉納絵馬

余談 澤田八幡神社は境内を電車が通ることで知られていますが、奉納された絵馬の数は藤井寺市内では、小山の産土神社の91点に次いで56点もの絵馬が飾られています。普段は拜殿の扉が閉まっています見づらいなのですが、秋祭りの時は開放され鑑賞することが出来ます。

ルートから外れますが、澤田八幡神社の反対側の小道を北へ向かうと、極楽寺があります。本田道正が慶長17年(1612)に極楽寺を開基したと伝えられています。



鐘堂・鼓楼門

番14

「立ち葵」軒丸瓦

極楽寺の南西角に地蔵堂が建てられており。その中に三体のお地蔵さまが祀られています。



右道明寺天満宮 是ヨリ三町
京四条講中

⑥ 最も大きい中央の地蔵の光背に、道標の文字が刻まれている。持宝地蔵立像の頭上には（カ）が、向かって右側には「右 道明寺天満宮 是ヨリ三町」、左側には「京四条講中」とある。距離の上から見て、現位置では妥当でない。造立者が京都の四条講中という点に注目すると、京都からの参拝経路である東高野街道との関わりが指摘できる。 **番 1 4**

余談 極楽寺の本願寺式本堂、太鼓楼、豊臣秀頼・徳川四代の位牌等話題が多いお寺ですが、機会があれば紹介したいと思います。極楽寺の山号は仲津山です、仲津山とは仲姫命陵のことで極楽寺の歴代住職のお墓があります。皆さんも目にされているかと思います。



仲姫命陵堤上

番 1 5



極楽寺歴代



極楽寺大楠が微かに見える

現在畑となっている西側の場所に、葬られ点在していた歴代の骨壺を集め、ここに埋葬したとのことです。

さて、極楽寺から澤田八幡神社の前の道に戻り、さらに東へと進みます。正面突き当りに堺大和高田線、道明寺小学校が見えてきます。



道明寺小学校



道明寺小学校

堺大和高田線の信号手前にある駐車場の横の小道を通り、堺大和高田線を横断し北へ進みます。現在は真っ直ぐ行って、信号を渡ります。 **番 1 6**



堺大和高田線を横断



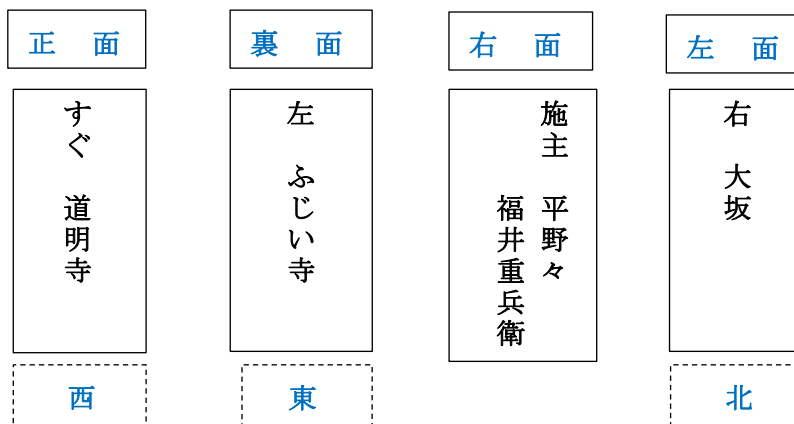
さらに北へ



沢田郵便局前で長尾街道と合流 番17

堺大和高田線を渡り、道明寺小学校の西側の小道を進むと沢田郵便局の角で長尾街道と合流します。長尾街道から東高野街道を行けば道明寺に参詣できます。

下記道標は 2016 年 7 月「ふじいでら広報・歴史紀行 114 号」掲載分です。



⑦ この道標は、現在、校舎の改築工事に伴って、一時的に文化 財保護課で保管していますが、元は道明寺小学校の管理棟の前庭にありました。しかし、どのような経緯で道明寺小学校に移築されたのかということは伝聞されておらず、元々どこに建立されていたのかは定かではありません。

この道標の建立年代ははっきりと分かりませんが、現在の大阪市の平野の福井重兵衛という人物が建立したもので、正面の「すぐ 道明寺」という文面から、本来は道明寺の近辺に建立されていたことが分かります。通常、道標は、寺社を巡る参拝者のために街道のつじに建立されることから考えると、この道標はおそらく長尾街道沿いのつじに建立されていた可能性が高いと推測されます。

また、「左 ふじい寺」や「右 大坂」を頼りに本来の建立場所を推定してみると、道明寺小学校の北側を東西に走っている長尾街道沿いのある一つのつじが 思い浮かびます。

それは、現在の藤井寺 沢田郵便局のつじ です。道標の正面を西側に向けると、大坂方面から長尾街道を東へ向かう参拝者には、道明寺への道標になります。また、長尾街道を西に向かえば、道標の左面が示す通り大坂方面に、南の方向に進めば、道標の裏面が示す通り、巡礼街道を東へ向かうことができます。

以上のように、この道標が本来建立されていたと考えられる 場所を推測してみました。正解かどうかは、もう少し時間をいただいて情報を集めてみたいと思いますが、文化財保護課では、街道の歴史的な風景をつくり出している道標を本来の建立場所に設置したいと考えています。
(文化財保護課)

上記道標はまだ設置されていません。担当の方が夭折されておりこれ以上の詳しい情報が取得できていません。下記の歴史紀行に掲載されている推測図に「巡礼街道」と記載されていますが、文献等の確認もできませんでした。



歴史紀行掲載推測図



北から 番17



現在、沢田郵便局の辻には「河内ふるさとのみち」の『道標』が設置されており、巡礼街道には「沢田神社 0.3 km 極楽寺 0.4 km」、長尾街道には「市野山古墳（允恭陵）0.3 km 道明寺 0.7 km」と記載されており、葛井寺東門から沢田郵便局までの間が「巡礼街道」と呼ばれていた可能性は有りそうです。

然しながら、村絵図等の検証は出来ていませんのであくまでも推測の域を出ないことをご了承願います。

また、「西国三十三所名所図会」記載の「東門から野道を行べし、凡そ行程十八丁」から1丁=60間÷109mで計算すると約1,962mとなり、このルートでは距離的に長くなりそうなので、別ルートの可能性もあります。

終わりに、今回の葛井寺以降の巡礼街道については筆者の独断と偏見で推測していることを改めてご了承願います。

次回は、藤井寺市内は通りませんが、最古の官道と呼ばれる竹内街道をご紹介します。

(2024.7 中村)